

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名：国際貢献フェスタinみえ2005

■コーディネーター氏名・所属：浦田宗昭

■ふりかえり会議開催年月日：平成17年7月25日 17:00～21:00

### 1. 協働のプロセスについて意見

この事業は2004年に第1回が行なわれた。第1回の反省を踏まえ改善をしての第2回目の開催となった。形式としては委員会方式をとる委託事業であるが、市民側は行政と共に協働しているのだという気概を持ち事業を展開してきている。行政側も委託事業という感覚ではなく、共に創っていくという形で対応してきた。これは、委託という名前の協働といえるかもしれない。

### 2. 成果についての意見

#### (1) 事業そのものの成果

参加者数の目標達成、参加者からの感想では「国際貢献の形、関わる人が分かった」で75パーセントが○と答え、「世界貢献が身近なことだと分かった」や「世界や社会貢献を考えるきっかけになった」などの項目で60パーセント以上の人が○と答えていることから、事業そのものの成果もしっかり出ていると言える。

#### (2) 協働から生まれた成果物

行政と市民が協働することで企業や学校などとの繋がりもできた。委員会の市民メンバーが様々なネットワークが作れたことも、事業そのものの成果物ではないが、ひとつの副産物であると言える。また、事業を通しての経験や出会いなど目に見えない成果物についても是非理解しておいてもらいたい。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

#### (1) 事務局の個人的な負担

今回の事業では、一番の課題となったのは特定の方に負担がいったしまったことであつたと思う。事業を展開していると、ついつい行政、市民という先入観で事業展開をしてしまう場合がある。今後も協働という意識の中で事業展開を考えて行くなれば、市民側も行政側もお互いにより理解を進めながら、役割分担を明確にした上、問題が発生したらお互いに補完し合いながら事業を進めることを期待する。

#### (2) 第3回目の事業についての課題

行政の判断で行なうことであると思うが、アンケートなどでは結果が出ない、経験が

ら生まれるような小さな心くばりや改善できるところなどを生かすために、今まで事業を行なって来た市民のメンバーにも何人か残ってもらい、次の事業につなげて行くことを期待します。

### (3) 長期的課題

この事業を通して残った成果物を生かして行けるよう行政側も市民側も後々に残せる資料づくりをしっかりとしていただきたい。行政側は、同じコンセプトでなくても構わないので、今回携わってくれた市民や企業、学校などのネットワークを把握して、新たな国際貢献等の事業展開に生かしてもらいたい。市民側は、市民だけではなかなか創ることのできなかつたネットワークや経験を生かせるように、長期的なビジョンづくりなどの事務局を行政に任せるのではなく、市民としてのノウハウの蓄積、ビジョンづくりなどを独自で行なってもらいたいと思います。

## 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

この事業は委員会形式の委託事業ではあるが、協働と思いながら事業展開をしていた事例であると思います。この事業が協働と言えるのかどうかは別にして、行政と市民が共に創り上げていくことの難しさを感じました。

このような事業は、参加者が楽しく満足感の与えられるようなものでなければならぬ事業です。また楽しさや満足感だけでなく、ちゃんと何かを持ち帰ってもらわないといけない事業だと思います。設営したり

企画したりする側は、シビアに考えれば非常に難しい事業ですので、事業遂行の苦労は大変なものだと思います。事業の評価が金額ではなく「満足度」で表すことができればいいのにと感じました。そういう意味ではアンケートはとてもいい資料となるように思います。また、特に事務局等の裏方は、非常に負担がかかるものです。市民と行政と一緒に事務局担えるような、しっかりとした体制で次に望むことを期待します。

行政側は、もう少しだけ市民に仕事をしてもらおうようにしてもらおうといいと思います。何もかも行政がしていては市民は育ちません。市民を信頼するなら、もっと責任を持たせるべきでしょう。

市民側は、事務処理など行政任せにしないで、市民としてできることを少しだけ考えてみていいと思います。また、市民同士のネットワークを使ってできる限り自分たちでできることは自分たちですするという気持ちを持っていてもらいたいと思います。

## コーディネーターとしての事業に対する意見シート

- 事業名：国際貢献フェスタinみえ2005
- コーディネーター氏名・所属：鈴木照彦(三重県NPO室)
- ふりかえり会議開催年月日：平成17年7月25日 17:00～21:00

### 1. 協働のプロセスについて意見

この国際貢献フェスタは昨年度に引き続き2回目の開催であるが、協働のプロセスにおいても第1回目の反省を活かした取組がなされていた。具体的には、実行委員を公募しており積極的な参画者を募ったり、会議の持ち方や情報の共有の仕方に工夫が見られた。一方、このフェスタの運営が実行委員会方式であったため、行政が主催する中で、市民が参画する形となり、民と行政の「協働事業」と定義するには無理があるのではといった意見も出た。

### 2. 成果についての意見

成果については、当初の目標である参加者数をクリアするなど一定の目標達成がなされている。また、アンケートを詳細に分析・整理しており、その中から課題を発見したり、今後の事業への活かし方を考えるなど事業をふりかえる作業が行われていた。また、実行委員会の会議などをおしてネットワークの広がりが見えるなどの成果も出ている。

### 3. 課題・改善の整理とまとめ

この国際貢献フェスタについては、来年度(3回目)において事業が終了となるが、1, 2回目の反省や成果を踏まえ、最終年度において如何に当初の事業目的の成果が達成されるかを見据えて事業を実施する必要があると思われる。

事業終了後、各自において今後の取組にどのように活かしていくか十分に意識の共有を図りながら検討していくことが望まれるが、行政においては同様の事業を今後も継続することは難しいことから、次のステップをどのように展開していくのかが問われてくるのではないかと。

また、会議の中で、事務局(行政)に負担が過度にかかることがあったなどの指摘があったが、具体的にどのように改善をしていくかなどの意見交換が無かったことから、今後この点についても検討していくことが望まれるのではないかと感じた。

### 4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

ふりかえり会議を行うに際して、当初は協働事業か否かといった議論もあり、個人参画の色彩が強い事業であることから、行政対民間といった組織対組織における協働のプロセスの確認といった作業ではなく、行政が中心となって構成している実行委

員会にどのように参画していたかといったことをポイントに検証を行った。

結果的に、ふりかえり会議を行う前に、実行委員会で一度話し合いを持って、チェックリストを基に意見を集約した結果、前回の反省会では消化仕切れなかった課題についても深く議論することが出来るなどの成果も上がるなど、概ねふりかえり会議の意義を体得していただいたのではないかと感じている。